

主日礼拝

2022 年 02 月 27 日
午前 10 時 30 分

前奏 「神の光よ、我らの心を照らしたまえ」
(H.ウィラン)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「主はわたしの光、わたしの救い
わたしは誰を恐れよう。
主はわたしの命の砦
わたしは誰の前におののくことがあろう。」
(詩編 27:1)

交読詩編 125: 1~5

司式者：主に依り頼む人は、シオンの山。

会衆：揺らぐことなく、とこしえに座る。

司式者：山々はエルサレムを囲み

会衆：主は御自分の民を囲んでいてくださる
今も、そしてとこしえに。

司式者：主に従う人に割り当てられた地に
主に逆らう者の笏が置かれること
のないように。

会衆：主に従う人が悪に手を伸ばすこと
のないように。

司式者：主よ、良い人、心のまっすぐな人を
幸せにしてください。

会衆：よこしまな自分の道にそれて行くものを
主よ、悪を行う者と共に追い払って
ください。

一同：イスラエルの上に平和がありますように。

祈祷

献金 献金箱が受付に置いてありますので、
礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 マルコによる福音書 4: 35~41

新約(新共同訳)p68~p69

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡
ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは
群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出し
た。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起り、
舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。し
かし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。
弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたち
がおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエ
スは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静
まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪
になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。
まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「い
ったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえ
も従うではないか」と互いに言った。

賛美 456 「わが魂を愛するイエスよ」

Jesus, lover of my soul
詞：Charles Wesley, 1707-1788 曲：Simeon B. Marsh, 1798-1875

わがたましいを あいする イエス よー、
なみはさかまき かぜふき あれ てー、
しずむばかりの わが身をまもりー、
あめのみなとに みちびきたまえー。

- 1 わが魂を愛するイエスよ、 3 主の名によりて すべてをゆだねん。
波はさかまき 風ふきあれて、 罪のこの身を あわれみたまえ。
沈むばかりの わが身を守り、 弱きをささえ 心いやし、
天の港に みちびきたまえ。 恵みとまこと 満ちさせたまえ。
- 2 われには他の かくれがあらず、 4 主こそ尽きせぬ いのちの泉。
ゆきなやむ身を み心にとめ、 たえず湧きいで ころにあふれ、
たよるものなき わが魂を われをうるおし、 渴きをどめ、
つばさのかげに やどらせたまえ。 とこしえまでも やすきを賜え。

説教 「嵐の中から」

賛美 92 「主よ、わたしたちの主よ」

詞：佐久本正志、1953-

HAKEN
曲：鈴木千恵子、1944-



1 主よ、わたしたちの主よ、ゆるされたよろ
2 主よ、わたしたちの主よ、わきあがるかん
3 主よ、わたしたちの主よ、しめされたへい



こびにみち、いま、でかけます。
>しゃにあふれ、いま、でかけます。>
わのみちに、いま、でかけます。



あなたのろうくにくわわるために。
>あなたのみむねにしたがうために。
あなたのみわざをつたえるために。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」

会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



アーメン アーメン アーメン

後奏 「主よ、わたしがここにおります」 (J.カーター)

司式 袁 紅
説教 向井 希夫牧師
奏楽 大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。